A9ニュース

NO．13　　2007.5.20

発行：憲法９条で平和を守る　あきる野９条の会

事務局：〒197-0814 二宮 1421-4 前田眞敬 電話 558-7857

映画「日本の青空」を
みんなで みましょう！
６月２日（土）

午後2時からと午後6時から。秋川キララホール

前売券 1200 円、当日 1500 円。学割券（中～大学生）800 円。

以前に販売した製作協力券でも見られます。

前売券現在 550枚、さらに普及を

映画は、日本国憲法の原点を取材する若き編集者が、憲法学者・鈴木安蔵の家族との出会い、日本国憲法成立の真相に迫ります。戦時下で、たゆまぬ研究を続ける若き憲法学者と家族の涙ぐましい生き様は、見る人に深い感動と勇気を与えることでしょう。

原作･脚本はあきる野市在住の池田太郎氏。映画の中には五日市憲法も登場します。

この映画は、九条を守る活動に賛同している人はもちろん、周りにいる人々に何が真実かを伝え、真に平和を求める世界の人々と手を携えていくため、大きな力になることでしょう。会では 1000 人以上の鑑賞を目指して取り組んでいます。

友人知人･家族ぐるみで みにいきましょう。

改憲手続き法の採決を強行

いまこそ「アピール」への賛同者を増やしましょう

５月 14 日、参議院で採決が強行された改憲手続き法（国民投票法）は、３年後には施行される事になります。安倍首相は、憲法を改定して、アメリカと一緒になって戦争のできる日本を作ろうと執念を燃やしています。まさに、私たちの活動も秒読みの段階に入ったといえます。

今こそ九条を守る「アピール」（右に掲載）の賛同者を大いに増やしましょう。封筒に「賛同カード」があります。**ご家族、お知り合いの方でまだ賛同されていない方**にぜひお勧めください。（市外の方もＯＫ）

現在の到達点：賛同署名 853 名

うち呼びかけ人の公表者 345 名

市民の皆様へのアピール

日本国憲法を変えようとする動きが強まっています。2004 年６月、日本の知性を代表する９人が九条の会をつくり、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、「改憲」のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力をいますぐ始めようと九条の会・アピールを発表し、全国民に賛同と連帯を呼びかけました。

私たちは、九条の会の高く掲げた理念と呼びかけに心から賛同し、「憲法９条で平和を守る　あきる野９条の会」を結成しました。社会的な見方、政治や宗教についての見解、様々な立場などの相違点を越えて、憲法九条を守るという一点で共同を、すべてのあきる野市民の皆様に訴えます。

市民の皆様の、アピールへのご賛同とあきる野９条の会へのご参加、活動の大きな発展のための募金を心からお願い申し上げます。日本と世界の宝、憲法９条をごいっしょに守りましょう。

2005 年４月 29 日

憲法９条で平和を守る　**あきる野9条の会**

訃報　呼びかけ人の工藤隆一さん(伊奈)、渡部直吉さん(瀬戸岡)がお亡くなりになりました。心からお悔やみ申し上げます。

発足から２年の間に、賛同者 14 名（うち呼びかけ人９名）の方がお亡くなりになりました。残念で、悲しいことですが、『千の風になって』私たちといっしょに憲法九条を守る運動を進めていることと思わずにはいられません。

戦争を語りつぐ会
戦争体験記大募集

語りつぐ会では引き続き体験記を募集しています。今号では体験を描いた絵画(写真)も掲載しました。(体験記は後日小冊子にします)

▼ 手記「戦争体験」(つづき)

アメリカ兵のジープが・・・

近藤 英子（二宮）

私が敗戦を迎えたのが、小学校１年生の時でした。埼玉の金子で畑地の多い農村でした。学校にいて空襲のサイレンが鳴り響くと、防空頭巾をかぶって上級生について旧道を帰ったものでした。新道は青梅から入間駅の方へ通じている道です。旧道は人家も多く、木々もいっぱいあってカギの手の様な道でした。隣組の人が「明かりが漏れる」とか云って見回りをしていました。

どういう情報が伝わったのか解りませんが、今夜は日本が全滅ということで、夕方になって牛車に荷物を積んでガラガラと引き出す人もありました。私の家は新道に沿ってありましたので、それを見たのを覚えています。父親がリヤカーに荷物を積んで、１才半の弟もその隙間に立って入れられていました。夏だったので蚊や帳はもったみたいです。家族５人は、縁側に腰をかけて、様子を見ていました。逃げるの 隠れるのと云っても畑か山の方です。その時を思うと、空の方はシーンと静まりかえっていたようです。何事もなく終わった様でした。後では笑い話をしたようでした。

学校の帰り道、私が１番前を歩いていた時、前方からアメリカ兵の乗った戦車ジープが数珠繋ぎになって来ました。後から来た友達はみんな近くの庭に逃げてしまいました。私は怖いと思いながら道路端を歩いていたのです。そしたらキャラメルの箱をひとつくれたのでした。戦後よく横田基地から入間基地へ通りました。

疎開先で約 10 年、体験を語らぬ父

清水 起代（留原）

私は昭和 18 年 2 月東京の銀座 4 丁目で生まれました。戦争そのものは記憶にありませんが小学校に入ってからも、探照灯の光とサイレンの音に、どこか逃げ込みたくなる衝動にかられました。

東京空襲に会い宮城県の松島に疎開。疎開先は、外地からの引き揚げ者や空襲で焼け出された者の為の寮と呼ばれる長屋が点在し、そこに入居出来ない者は、ほら穴に住んでいました。互いに助け合って生活していたと思う。子供達は、山で遊べば山菜や薪をとり、川では魚やしじみを。目につく釘、針金等金目？の物はポケットに…。集めたクズ鉄はバケツ 1 杯 10 円で、マムシ 30 円、シマヘビ 10 円と、一応生計を助けていたつもり。今話せば「えっー」と思われる事も。子供の私には結構楽しかったが、身寄りの無い地での疎開生活は大変な事で、いよいよ生活が苦しくなり、東京へ戻る事を渋っていた父も昭和 31 年、やっと重い腰を上げた。

引越の当日、父が「東京は地獄だった。今度戦争になったら東京は真先だ」とつぶやいた。当時警防団として東京にいた父は、東京大空襲後の隅田川周辺の後始末をしたそうな。父の口からは一度もその惨状は聞いても聞けませんでした。

一昨年の暮れの事、91 歳になる舅が軽い肺炎になり入院しました。環境の変化からか気がふれた様になり、暗い病室を地下壕と見たのか、ベットの上に立ち「敵が攻めて来たのに貴様等何をしている」と叫んだりして早々に退院させられてしまいました。豪放磊落な舅も戦争体験はトラウマとなって脳の中に残っている様です。

東京大空襲の記憶（絵画）

宮本 謙三（小中野）

戦争の悲惨さ、東京大空襲を体験したものとして、恒久平和を願い、これらを風化させないために描きました。**絵は「吾が子」**

Ａ９ニュースでは、皆様の投稿をお待ちしています。掲載するの場合は紙面の関係で主旨を変えずに短くすることがあります。（事務局までお寄せください）

※映画「日本の青空」のお問い合わせは事務局へ